

J29b **RXTE 衛星による AXP 1E2259+586 の長期観測の解析**

長崎健太 (立教大理)、森井幹雄 (立教大理)、北本俊二 (立教大理)

強磁場を持つ中性子星「マグネター」は、磁場のエネルギーを解放して輝いていると考えられている。マグネターの定常的な X 線スペクトルは、黒体放射と冪関数の重ね合わせで、よく表現できるが、このような放射を行なう磁場のエネルギー解放機構はよくわかっていない。RXTE 衛星は、10 年以上に渡ってマグネターを観測しており、膨大なデータがアーカイブとなっている。

そこで今回、RXTE 衛星が観測した AXP 1E 2259+586 の 9.4 年間のデータを解析し、ライトカーブを作成した。これは天体の強度が、長期間で有意な変動をしているかを調査し、マグネターの放射機構解明の手がかりとするためである。これより、2002 年 6 月のフレア後、hardness ratio が大きくなっていることが分かった。今後さらに詳細な解析を行ない、結果を報告する。